

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ヤマサキ 山崎 マキコ 真 紀子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>明治期から現代までの日本文学を、具体的にテキストの読解を通して考察していく。文学は、書かれた時代を反映し、政治・経済・文化の交錯の中で構築されてきた。作家は言葉を厳選し、表記にこだわり、人々の心に深く浸透できるように物語性を駆使し、どのように書くか文体や叙述法を常に創意工夫して作品を生み出している。本講義では日本近現代の小説を丁寧に読み、言葉の意味や比喩表現を読み解き、どのような順番で出来事が語られ、文体の工夫はどのようになされているのかなどを考察できる力を養う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本近現代文学の小説に慣れ親しみ、一字一句丁寧に読むことで、〈何か〉に気付くことができる。 ・気づいたことの意味を掘り下げて考察し、新たな視点で作品を読むことの面白さを人に伝えることができる。 ・多種多様な文学作品に触れることで、語彙力を増やし、人に正確かつ分かりやすく伝えるための文章作成ができる。 ・言葉の配置や文体、比喩を駆使して、人を引き付ける文章を書くことができる。 ・作品の読解を、資料を用いながら、論理的に書くことができる。 		
学修方法	<p>教材にある作品をなるべく多く読み、その中で特に気に入った作品は繰り返し読む。意味を調べたり関連資料を読んで精読する。緻密に読むことを通して、何かを「発見」したり、疑問を抱いたりしたことを大切に、メモを取っておく。また小説からの引用文もノートしておく。なぜ、気になったのか、なぜその文に惹かれたのかを、じっくり考える。</p> <p>そして自らの発見を生かして新たな読みを提示できるように、先行研究を探っていく。先行論文はどのような読みをしているか知識を得て、そのうえで自分のオリジナリティの上に立ち、自らの解釈を論理的に説明していく。このプロセスをレポートで報告する。助言を受けて、本格的に4000字程度の論文にまとめて提出する。添削を受けて、完成させる。</p>		
スケジュール	<p>前期：7月中旬までに教材1のレポート課題（1）最終稿を提出。 レポート課題（2）については9月中旬までに最終稿を提出。</p> <p>後期：11月中旬までに教材2のレポート課題（1）最終稿を提出。 レポート課題（2）については2018年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出。</p>		
成績評価	レポート	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>教材の精読と理解 30%</p> <p>自らの論説の妥当性と説得力 30%</p> <p>学術論文としての体裁、適切な引用がなされているか 20%</p>
	平常評価	20%	メール、manaba等を活用して、主体的に自らの疑問を解決することができたかどうか。
履修者への要望	<p>基本教材に掲載されている作品は、なるべく多く、かつ、繰り返し読むこと。レポート作成にあたっては、先行研究は国文学研究資料館のHPから論文検索したりCiNiiなども駆使して、かつ都道府県立の図書館や、近隣の図書館を積極的に活用し資料の入手につとめ、多くの研究論文に目を通してほしい。そのうえで、自分が気付いた「発見」を大切に立論し、客観的に論証できるように努めること。添削は何度でも受け、完成度の高いものを仕上げしてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 東郷克美・高橋広満編 教材名： 『〈異界〉文学を読む』（鼎書房、2017年2月）ISBN978-4-907282-29-5 2000円＋税
	〈異界〉をキーワードにして編まれた、15人の作家の短編小説が省略なく全編掲載で載っている。明治20年代から始まる明治期の文学作品、大正期、戦前・戦後の昭和の15編の短編小説を理解しやすいように解説も施され、先行研究リストも記載されている。
参考図書	『日本国語大辞典』（全13巻、小学館、2006年4月）などで、適宜、言葉の意味と用法を調べること。
履修上のポイント	日本近代文学を精緻に読みこなすために、作品に多く触れてほしい。教材は優れた短編作品が厳選されているので、何度でも繰り返し読むこと。解説や参考文献リストも参照して理解を深める一助とすること。作品を精読し、分析して問題を発見し、それをレポートで表現していくように、助言と添削を受けるようにすることが履修上ポイントである。
レポート課題 1	教材に掲載されている泉鏡花、永井荷風、佐藤春夫、芥川龍之介、谷崎潤一郎、梶井基次郎の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について2000字～3000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのかに留意すること。
レポート課題 2	教材に掲載されている夢野久作、江戸川乱歩、太宰治、萩原朔太郎、岡本かの子、井伏鱒二、中島敦、川端康成、井上靖の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について3000字～4000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのか、また語り方にも留意すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 村上春樹 教材名： 『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫、2004年10月）ISBN4-16-750207-0 448円＋税
	戦中に青年期を過ごし、従軍経験を持ち、戦後数年してから作品を発表し始めた「第三の新人」と文学史上言われている吉行淳之介、小島信夫、安岡章太郎、庄野潤三などの小説をアメリカのプリンストン大学で村上春樹が講義した講義録をもとにした小説案内。
参考図書	安岡章太郎『ガラスの靴 悪い仲間』（講談社文芸文庫、2014年12月）、 小島信夫『アメリカン・スクール』（新潮文庫、2008年1月） 庄野潤三『撫 静物 庄野潤三初期作品集』愛（講談社文芸文庫、2014年4月） 江藤淳『成熟と喪失 “母”の崩壊』（講談社文芸文庫、1993年10月）
履修上のポイント	日本現代文学を精緻に読みこなすために、作品に多く触れてほしい。教材は戦後（1949年）生まれの村上春樹が「戦後」社会を考えていくうえで、感受性の強い青年期を戦中に過ごし、応召され従軍経験を持つ第三の新人の描いた優れた短編作品に注目して厳選し、その作品の中核を分析している。教材は村上春樹がアメリカの大学院での講義が元になっているが、確かに吉行淳之介、安岡章太郎、小島信夫、庄野潤三など「第三の新人」の作品群は戦後の日本を考えていくうえで欠かさない作品である。村上春樹がなぜ彼らを選んだのかを考えつつ、3人の作家・作品の特徴を捉え、その作品が文学史に残っている意味を十分考察するように留意してほしい。レポート作成に当たっては適宜助言と添削を受けるようにすることが履修上ポイントである。
レポート課題 1	教材で取りあげられている作品を一つ選び、戦後社会においてこの作品の持つ意味を2000字～3000字で論じなさい。 留意点： この作品の持つ深層を彫り上げて捕まえること。
レポート課題 2	教材で取りあげられている『ガラスの靴』『馬』『静物』から一つ選び、戦後社会においてこの作品の持つ意味を「アメリカ」との関係性を軸にして3000字～4000字で論じなさい。 留意点： 作中に出てくる〈アメリカの影〉をしっかりと捕まえること。